

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

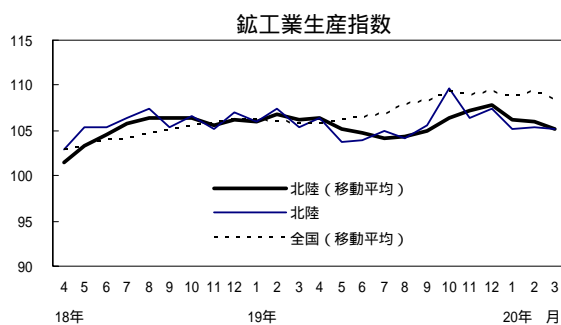
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）	
景況判断	緩やかに回復	回復の動きに足踏みがみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	改善の動きに一服感	改善の動きに足踏みがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、特殊産業機械（半導体製造装置）が減産傾向にあることや、金属工作機械の前期反動減により減少している。電子部品・デバイスも、中国、アジア地域中心に在庫調整が行われたことから減少している。化学は、界面活性剤が不調であったため減少している。繊維は、衣服類のうちニット外衣が、原材料高騰、円高、在庫増により減少している。金属製品は、改正建築基準法の影響で、ビル用アルミサッシが不調であるが、木造住宅用アルミサッシは持ち直してきているため、全体としては増加している。



- (備考) 1. 季節調整値。北陸の最新月は速報値。
 2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。
 3. 北陸は12年基準、全国は17年基準。

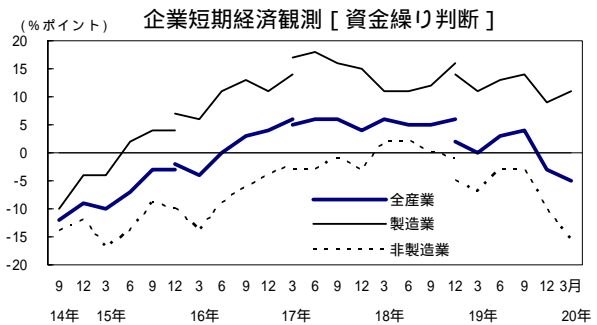
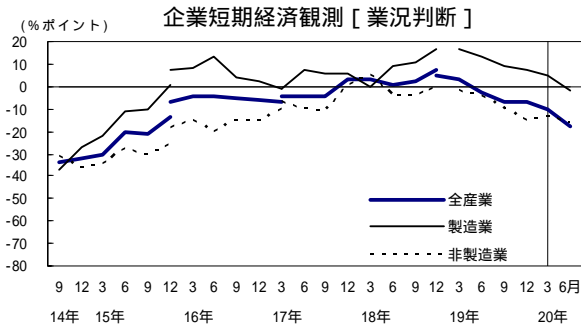
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3月 期	1~3月 期	1~3月 月期
一般機械	14.8	8.1	4.7	-	-
電子部品・デバイス	13.8	9.7	8.3	-	-
化学	12.7	0.2	2.7	-	-
繊維	12.4	0.1	2.1	-	-
金属製品	10.6	0.8	0.5	-	-
鉱工業	100.0	2.8	2.4	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
 2. 1~3月期は速報値。
 3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

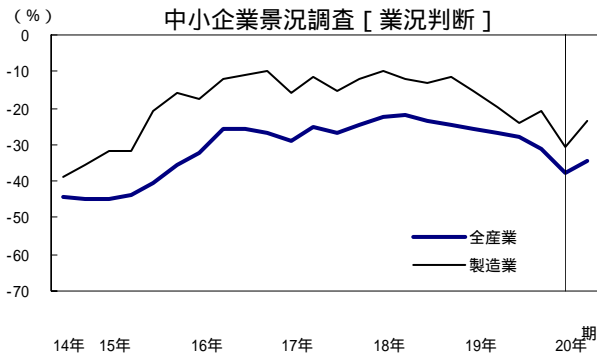


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「各企業へ電話設備の提案をしても、原材料等の値上がりで資金的に難しいという態度が目立ってきた。特に大型のビジネスホンの更改で顕著である(通信業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

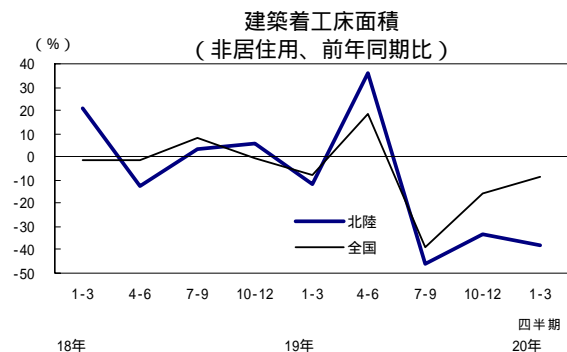
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	19年度実績見込み	20年度見込み
全産業	12.4(4.7)	13.4
製造業	15.4(6.0)	6.6
非製造業	5.4(1.4)	30.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

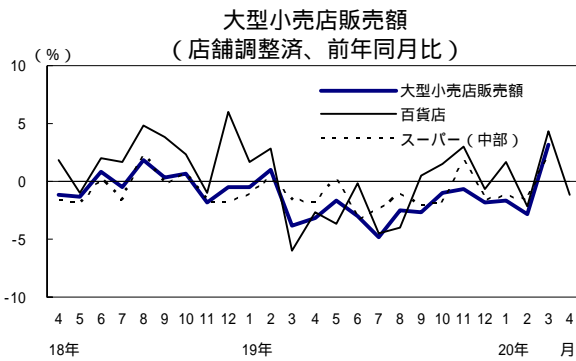
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、気温低下に伴って衣料品を中心に持ち直し、前年を上回った。2月は、降雪の影響で客数が減少したことや、気温の低い日が多かったことから春物衣料が振るわず、前年を下回った。3月は、野菜など生鮮食料品の相場高で食料品が増加したことに加え、昨年の能登半島地震の反動増もあったことから、前年を上回った。なお、期を通じて、一部で移転開業効果があったことから、前年を上回った。4月の売上高は、前年同月比1.2%減となっている。

スーパーは、飲食料品に動きがあったものの、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「客は余計なお金は使わないため、マッサージやお土産など、館内での趣向品の販売量が3か月前と比較して非常に悪い。常連客はそれほど減っていないが、一見の客の利用減が顕著である(その他レジャー施設)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



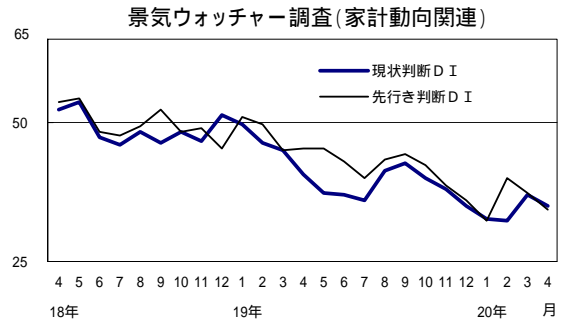
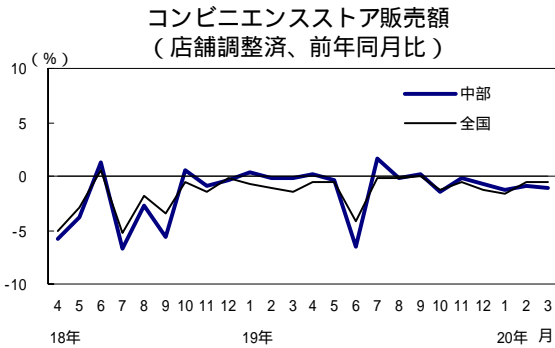
	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	2.6	3.4	1.2	0.6
百貨店	2.1	2.9	1.0	1.4
スーパー	1.7	1.9	0.7	0.3
コンビニ	2.3	0.6	0.8	1.0
景気ウォッチャー	38.3	40.0	37.6	34.1

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

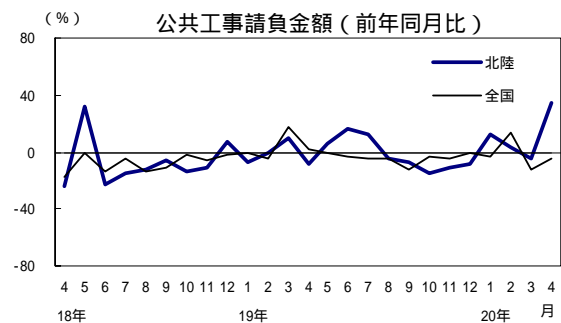
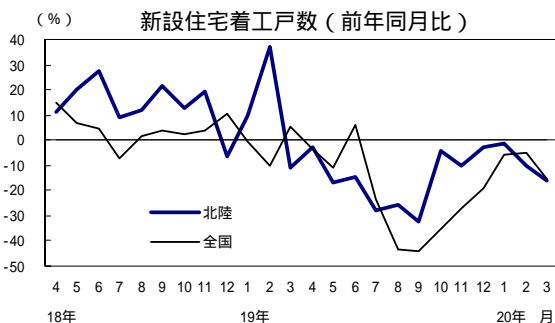
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

給与、分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。

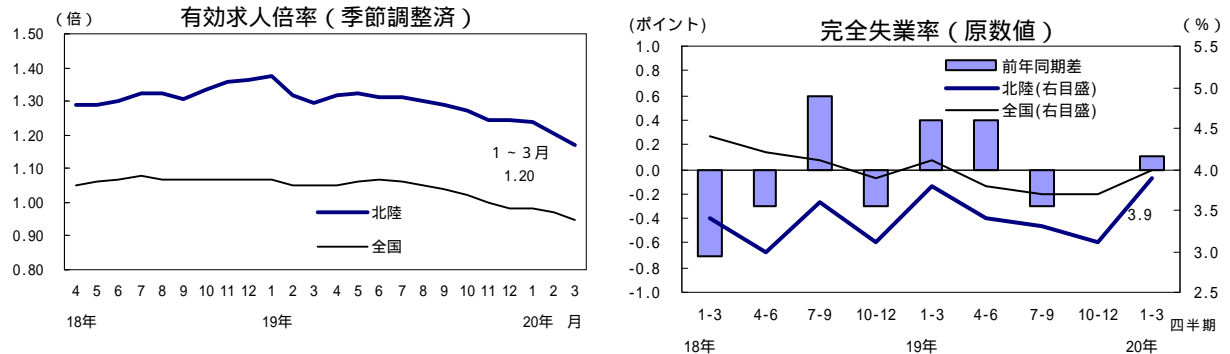


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

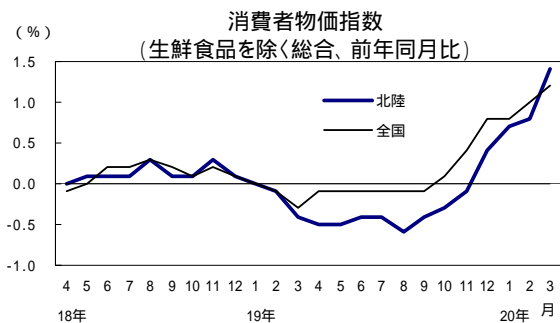
「求人件数が前年に比べ減少している。特に正規雇用の募集件数が低調である。企業は人員や雇用形態を見直し、総人件費削減への動きに拍車を掛けている (新聞社 [求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	103	71	90	103	29
(前年比)	1.9	2.7	21.6	33.8	29.3
負債総額	304	188	459	502	79
(前年比)	15.4	3.0	45.7	177.6	50.6



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・売上は前年の92.6%。給料日以降の1万円札の回収も大幅に減り、小銭での支払いが増えた。従来はたばこのついでにもう一品という買物もかなり見られたが、最近ではたばこだけで終わるケースが多い。主要客層である成人男性の財布の中身は厳しい (コンビニ)。

<先行き>

・ショールームの来客数は少ないが、5月は新商品の大型ワゴンがモデルチェンジするため、受注量の増加が期待できる。新型車の予約は予想台数を超過している (乗用車販売店)。

